

# 校長の退任にあたって

前富山高等専門学校校長

賞雅 寛而



本年3月をもちまして富山高専校長を退任いたします。

長浜啓一会長をはじめとしてほんごう会の会員および関係者の皆様には任期中の本校へのご支援・ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

振り返れば、高専の特徴である、15歳から本科卒業の20歳まであるいは専攻科修了の22歳までの、人生の最も成長する時期に、先端的研究者・技術者から専門分野の基礎から応用までを習得できる世界でも稀有の教育システムであること、また先端的研究者から各分野の専門を習得するのは大学と同様ですが、15歳からという最も学習効果の高い時期の習得は大学より優れている教育システム（本校のキャッチフレーズ「15歳からはじまるカレッジライフ」はその特性を具現化したものです）だということ、どのように活かすかまた発展させるかを考え続けた5年間でした。

本校は、商船高専と工業高専が統合した全国で唯一のスーパー高専ということが特徴ですが、赴任直後の本校は統合後8年たったにもかかわらずキャンパス間の交流がほとんど無く、本校の特性を生かしていませんでした。平成29-30年当時はまだ遠隔会議も一般化していませんでしたが、キャンパス別に集合で行なわれていた学内の会議を「ワンカレッジ化」のスローガンのもと全学的に遠隔で行うようにいたしました。時間はかかりましたが、教職員の皆さんが遠隔会議に

## 卒業証書・修了証書授与式

卒業生・修了生の皆さんには、5年間あるいは7年間の富山高専の在学を常に人生の糧にしていただけたらと思っています。

慣れてきていたためということもあり、令和元年春のコロナ禍で全国の大学・高専の中で最も早く遠隔講義を行えたという効果もありました。

また、同窓会も旧工業高専と旧商船高専の流れで2つに分かれたままでしたので、富山高専卒業生を「ワンカレッジ」として受け入れる新しい同窓会を、ほんごう会と北斗会の皆様と協議し設立できたことは幸甚でした。

ここで、地域企業の皆さんのための人材輩出は、高専の重要な使命です。従ってその教育は、急激に変化する近未来の環境に合致したものにし続けなければなりません。少子高齢化・国際化・ダーバースィティ化とともに、IoT・データサイエンス・SOCIETY 5.0などの産業変革に対応するために、常に先端的な教育ができるよう、本校の特性を活かした、新規プロジェクトを立ち上げ、人材教育のチューニングをしています。

そのような対応により、本校がさらにブランド化されるよう、すなわち「学生・教職員にとっては楽しく、中学生にとってはあこがれの、卒業生にとっては誇り」になるように、教職員一同努めてきています。

これからもほんごう会の皆様のご協力を得て、全ての卒業生・同窓生の皆様に誇りにしていただける富山高専であり続けられることを、心より願っております。